

「2017年 第40回座間味ヨットレース参加報告」

博多ヨットクラブのテーマは『Cross Over』。様々な海面、いろいろな楽しみ方を満喫しているセーラーたちと親睦を重ねたい。そして今年も沖縄・座間味ヨットレースに参戦してきました。

メンバー構成

博多からの遠征組、昨年は3艇5名でしたが、今回は5艇11名が参加。

博多ヨットクラブチームは、いそしぎ (MOANA) 高橋、槻木、坂田さん3名、JORDAN浪平、山田2名、ウイスパリングジャック西岡さん親子2名の前期高齢者混成チーム。

チャーターしたヨットは、「グッディリザ7」(三浦オーナー)。N/M48フィート(旧コンテッサ)あの石原慎太郎さんの愛艇でした。さすが要所にお金をかけた無駄のない艤装、素晴らしいヨットだった。

同乗していただいた三浦オーナーからの風向、潮流、水深などアドバイスをいただきながら、長年来のチームのように和やかで楽しいヨットレースを経験することができた。三浦オーナー、そして遠征チームの皆さん、ありがとう。



レーススタート

6月24日土曜日、今年40回目の節目ということもあり過去最高の59艇がエントリーしてのレース。3クラス(クラスⅠ、クラスⅡ、マルチハルクラス)に分かれて熱戦が繰り広げられた。マルチクラスが設定されているのも沖縄らしい。

クラスⅡは午前8時30分、マルチクラスが午前8時40分、そしてクラスⅠは午前9時00分に宜野湾港マリーナ沖合をスタート。

宜野湾港マリーナ沖合より座間味港沖合まで28マイルは、スタートから重くて安定したWSW15~20ノットの風。一路240度、渡嘉敷島の北端を目指す。

トップグループに入り順調にセーリングを続けていたところ、途中でメインセール・アウトホールクリューが外れるトラブルに遭遇(私、山田の艤装ミスでした)。応急措置を終えて渡嘉敷島を越えると座間味島。第1マーク(古座間味ビーチ)を廻り安室島を巡って第2マークをジャイブするとフィニッシュ地点の座間味港が出迎えてくれた。慶良間諸島を巡るコース設定も素晴らしい!



懇親パーティー

さてレースが終わって上陸、港では島を挙げての懇親パーティーが準備されていた。座間味町長・宮里 哲（ミヤザト サトル）様による歓迎のあいさつ、表彰式、島民挙げての模擬店には地元沖縄の料理が並び、おじい、おばあの愛情のこもった料理が実にうまい。子供たちのフラダンス、本格的なエイサーの踊りで大いに盛り上がった。最後に沖縄人のエンターテイナー「ゆきひろ」さんの沖縄と海の歌、手話による歌の披露も大いに盛り上がり、エンディングは大勢が壇上に上がって踊り始めるハプニングも非日常で興奮した。



座間味島について

慶良間諸島国立公園の中に存在する『座間味島』は、その美しさから『世界が恋する海』というフレーズで表現されている。しかしその表現だけでは十分で無く、まさに楽園。浅瀬のエメラルドグリーンから深みの藍色。そのグラデーションの美しさは逆に「本当に自然の美しさなのか？」と疑ってしまう。この海で趣味のシュノーケリングをしたが、美しい単色の魚、ド派手な衣装に身をまとった魚、多くの熱帯魚たちが寄ってくる。けばけばしい化粧をしている魚までいるから笑ってしまう。ニモたちも子育てに忙しい。この美しい海に抱かれてヨットレースに参加できるのは本当に夢のようである。来年はより多くのヨットマンが博多ヨットクラブから参加できるように願ってやまない。



座間味島でのハプニング

さて「この島をもう少し探検しよう」とバイクを借りて一回り。40～50分も走るとほぼ島を半周した。途中、古座間味というビーチでパラソルやシュノーケルのレンタルショップで働く若者に出会った。話をするうちにすぐに共通の話題にヒットした。何と彼ら（男性女性一人ずつ）は、福岡大学のヨット部OBの与那覇君と婚約者だった。与那覇くんはもちろん沖縄の人。女性は彼の婚約者で、故郷福岡に居つくことなくここ沖縄で彼と結婚を予定している。若い二人の幸せな未来に乾杯。そしてI'll be back. また来年！！



博多ヨットクラブ会長 山田 義二